

令和7年度【2025年度】とうきょう すくわくプログラム活動計画書

園名	荒川区立第二東日暮里保育園
----	---------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然探検！小さな冒険者になろう！～身近な自然を探しに行こう～」
・園庭を中心に、葉や花、その色や匂いに気づき、探求していく。
・植物だけでなく、気候、空、昆虫などから季節の移ろいや、日光、木漏れ日、色彩等に興味関心を持つ。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
・園庭が広く、植物を植えられる環境にある。
・幼児クラスは部屋と園庭が直結しているため、机や椅子を保育室の前に出し、すぐに観察、研究できる環境を整えることができる。
・園庭にある植物や、そこに集まる動植物に子どもたちの興味関心が集まってきている。

2. 活動スケジュール

・公園側の植木を畑にし、植物や野菜の育成を行う。プール横のスペースを造園業者に依頼し整備してもらい、そこで匂いや色、色水などを楽しめる植物を育て観察できる環境を作る。
・あえてテーマを具体的に決定せずに、各クラスが園庭で遊ぶ中で子どもたちの興味関心をキャッチし、それを探求できるようにしていく。
・夏の間は水遊びや図鑑を見て虫・草花など自然物への興味を持つ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・公園側の植木を畑にし植物や野菜を植えられるようにする、園庭のプール横のスペースを整備し色や匂い、色水遊びなどを子どもたちが自由に楽しめるスペースにするため、現在岩田造園依頼中
・造園会社の見積を見て消耗品の購入品を決定し、植物の育成に着手する。
・今年度はプランターで植物の育成を行い、今後は地植えで植物を広げていく。
・2期(図鑑・プランター・土・さらし・鉛筆・画用紙・すり鉢・すりこぎ・透明ボウル)
・全園共通(デジカメ6台、水中カメラ1台)

4. 活動の内容

・すくわくPT発足(第一回6月2日、第二回7月7日)
・造園会社打ち合わせ7月7日

・事例発表(2期、3期、4期)
・まとめ(年度末)




R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園

タイトル アリの観察		0歳児 ひよこ組
		参加人数 9名
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
11月7日	<p>・保育者の様子を気にかけて、Rちゃん、Tくん、Rくんは保育者の様子を近くで見ている。</p> <p>・枯れ葉の上にいるアリの動きを追い、保育者が「アリさん、いたね」と伝えた言葉にRちゃんは「うんうん」と頷いて見ている。</p>  <p>・Rちゃんは、近くに落ちている枯れ葉を探し、保育者から受け取ると、同じように枯れ葉の上にアリを乗せようとしていた。</p> <p>・Rちゃんは、指で触れてみようとする差し指でアリの動きを追っていた。</p> <p>・Tくんは「おー！」と拍手をして喜んでいた。</p> <p>・Rちゃんは今までアリのページにあまり興味がなかったが、「あ、あ」と指さしをして教えていた。</p> 	<p>・小さなアリを花壇近くに見つけ、つぶれないように近くにあった枯れ葉でアリの葉っぱの上に乗せ、子どもに見せた。</p> <p>・枯れ葉から歩いて落ちてしまったアリの動きに「あ〜あ、アリさんいたね」と声をかけた。</p> <p>・新たなアリを見つけ、「ここにもいるよ」と石段の上を歩いていたアリの指さしをして追い、様子を見ていた。</p> <p>・もう一度枯れ葉にアリを乗せてみる。</p> <p>・絵本「きらきら ぴかぴか」を読み聞かせをし、アリが出てくると、どのような反応をするのか様子を見ていた。</p>

今後の活動、課題

・室内は絵本「はらぺこあおむし」を好み、よく見て楽しんでいる。絵本の写真イラストを指さしたり、名前のオウム返しをしたりと楽しむ姿もあり、色んなものに興味が出てきている。興味や関心をもつ幅が広がるように、戸外あそびの際は、自然物に触れる経験を増やしていく。

R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園

タイトル あおむしの観察		1歳児 うさぎ組
		参加人数 18名
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
9月23日	<p>・園庭のミカンの木にあおむしを発見した。 クラスに持ちかえり、育て始めた。 「あおむし!」「はっば!」「うんち ある」と 虫かごの中の様子を声に出して知らせていた。</p>  	<p>・クラスの絵本棚に『はらぺこあおむし』を設定し、あおむしを見ながら楽しめるようにした。 ・気づきに寄り添うようにしていった。 ・虫かごの蓋をあけて観察していたが、蓋の裏でさなぎになったので上から観察している。</p>
10月	<p>・はらぺこあおむしのマグネット玩具を持ってきて「いっしょ」と話す。</p>  <p>・蝶になり、ベランダから園庭へ放した。 ・「ばいばーい」と手を振っていた。 ・絵本「はらぺこあおむし」を見て、「バイバイした」と話していた。</p>	

今後の活動、課題

・園庭でダンゴムシやカメムシ、カタツムリなど虫に興味を持つ姿がある。成長していく様子をこちらから言葉で伝えていった。子どもの発見には一緒に驚いたり思いを共感していった。今後も虫探しと一緒に楽しんだり、絵本や図鑑を見て興味を広げていきたい。



R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園

タイトル 夏野菜の成長		1歳児 うさぎ 組
		参加人数 18 名
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
R7.5	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭にて、幼児クラスが栽培している夏野菜に気が付く。 指さしや、「はっぱ」と発言し、気づきを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くで一緒に見ながら「小さな葉っぱだね」「緑色だね」など育ちの様子をその都度伝える。
R7.6	<ul style="list-style-type: none"> ・花や小さな実がなったことに気づき、触ってみようとする。 ・きゅうりを食べる真似をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきを代弁しながら、葉が大きくなっていること、花の色等を一緒に観察する。 ・優しく触る等かわり方を知らせる。
R7.7	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなきゅうりができていることに気づき、目を見開いて「ああ!」「おっきい!」と発言する。のぞきこんだり、プランターの裏から眺め、近くにきた友だちや保育士にも知らせていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを共感しながら、じっくり観察する姿を見守る。 ・ナスやピーマンの様子も知らせ、一緒に見に行く。

今後の活動、課題

・野菜の形や色、実がなる様子に興味を持っていたので、その姿に寄り添うように関わっていった。色や形の違い、野菜の種類など日々の遊びの中で触れていきたい。

R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園

タイトル みかん？びわ？		2歳児	こぐま組
		参加人数	10名
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮	
R7.5	<ul style="list-style-type: none"> 散歩先でびわの木を見た男児が「みかんだ！」と発言する。 散歩で何度も通るうちに子どもたちもビワを覚え、木を見かけるたびに「ビワあったね」と話すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あれはみかんじゃなくてビワって言って、近くで見るとみかんより小さいよ」としばらく立ち止まり一緒に観察する。 	
R7.6	<ul style="list-style-type: none"> 散歩先のビワの木から実が落ちている事に気づき始めて間近で観察する。 「食べられるかな」「これがビワ？」「ちいさい」「いいにおいする」と口々に思ったことや感じたことを発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> すぐに立ち止まり子どもたちが十分に観察できるよう時間を取った。 	
	 <ul style="list-style-type: none"> ・ビワの木と実を見比べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・間近に見たもの子どもたちはまだ食べるものという認識が無さそうだったので八百屋に売っているビワを見に行くことを提案する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の八百屋で実際に売っているビワを見せてもらう。「ビワありますか？」と自分で店員さんに声をかけている。 		

今後の活動、課題

保育園の近くにある八百屋だが今まで子どもを交えての交流は少なく少し不安もあったが、とても明るく受け入れてくださり今後もこういった交流を続けていきたいと思った。今後も旬の果物や植物に興味を持った際このように深める機会を設けていきたい。

日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
	<div data-bbox="448 208 743 488" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="365 490 746 775" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・見せていただいたビワの実がとても大きく、「やっぱりみかん？」と発言する子がいる。それに対して他児が「ビワだよ」と話している。 ・上記のことを連絡ノートに書くと数名帰りに道に落ちていたビワを見て今日の活動について保護者に話した子や、後日家庭でもビワを食べてみた子もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・八百屋さんに感謝の気持ちを子どもと一緒に伝えつつ子どもの観察の時間をしっかり設ける。 ・八百屋さんが保育園に野菜を納品していることなどを子どもたちに伝える。 ・子どもの様子やビワの木を発見してから今日までの様子を壁新聞で保護者に伝えた

タイトル		りんごの葉っぱ	2歳児	こぐま組
日時		子どもの興味関心、様子	参加人数	6名
			大人の気づき、配慮	
R7.5	<p>・子どもの発言をもとにまっくろくろすけ探しを行い、お世話をしている。</p>  <p>※チェーリングを餌に見立てている</p>	<p>・子どもの発言をもとにまっくろくろすけを作り、散歩先で探す遊びをする。</p> <p>・餌を食べて大きくなる想像を楽しんでいることに気づく。</p>		
R7.6	<p>・園庭で子どもたちがまっくろくろすけのおうちを作り始める。</p>  <p>※穴を掘ってお家を作っている。</p> <p>・保育士の言葉かけをきっかけに、各々がまっくろくろすけの餌を探し始める。</p>	<p>・「お家ができたら、ご飯をあげたいね」と声をかける。</p> <p>・「まっくろくろすけは何か好きかな」と自由な発想を引き出すよう声をかける。</p>		

今後の活動、課題

子ども自身が葉っぱの色の違いに気づき、味を想像した発言をしたことで他児にもその存在が知られ、落ち葉で遊ぶ様子が多くみられている。秋など紅葉の季節に落ち葉で遊ぶ活動の際に味の想像を楽しんだり、感触の違いに気づけるような活動につなげていきたい。

R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園

タイトル	雨の色、雨の味	2歳児 こぐま組
		参加人数 9名
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
R7.9.10	<p>・園庭に出ようとする通り雨が降っておりそのまま玄関で雨宿りをする。</p> <p>・空を見上げ目を凝らし、雨を見ている。</p>  <p>・しばらくすると一人が雨で地面が濡れていることに気が付く。「雨って緑なの？」</p>  <p>・濡れている地面を観察していると頭に雨があたることに気づき、触ろうとしている。</p> 	<p>・室内に戻らずあえて雨を観察することにした。</p> <p>・雨が見えやすい場所を伝え、子どもたちがじっくり観察できるよう見守る。</p> <p>・気になった場所に行き一緒に観察する。</p>

今後の活動、課題

普段間近に見る機会があまりない雨だが、とても興味津々で観察や想像を楽しんでいた。雨の日にベランダに出たり、カップや傘を使って戸外に出たりする活動も今後幼児クラスなどで取り入れながら、身近な自然に触れていきたい。雪や雷などの自然にも子どもたちがどのような反応を見せるのか気になった。


日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
	<p>・濡れている地面の水の感触が気になり靴で踏んでみたり、手で触ってみたりしている中で味に興味を沸く。</p>  <p>・「雨ってどんな味なのかな？」 「甘いのかな～」と友達同士で想像の会話を楽しんでいる。</p>  <p>・その日以来雨が降ると室内からじっと観察する姿が見られるようになる。</p>	<p>・子ども気づきややってみたい思いを尊重し、見守る。</p>

R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園


タイトル	ザリガニの赤ちゃん、脱皮した！	3歳児 ちゅうりっぷ組
		参加人数 23名
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
R7.10.17	<p>・男児2名がいつものようにザリガニの飼育ケースを洗おうとすると、「ザリガニの赤ちゃんが洋服脱いでる！」と脱皮していることに気がつく。その声を聞き、他児が集まってくる。</p>  <p>・「すごい」「お洋服が小さくなっちゃったの？」と思っていることを言葉にする。</p> <p>・「大きくなって」とE児が気づき、他児が「ほんただ」と他児が共感している。</p> <p>・保育者が「脱皮って言うんだよ」と教えると、登園してきた友だちに「脱皮したんだよ」と教えている。</p> <p>・生き物が好きなY児が図鑑を持ってきて、調べたりザリガニと見比べたりしていると、他児も一緒に図鑑を覗いたり見比べたりしている。</p> 	<p>・子どもたちが自分で気づいたり思ったことを言葉にして発信する姿を見守る。</p> <p>・子どもの気づきに共感する。</p> <p>・「みんなも体が大きくなったら、お洋服が小さくなるでしょ？」と子どもがイメージしやすい言葉で伝える。</p> <p>・友だちの気づきに興味をもち、共感していた。</p> <p>・少し待ったが、「脱皮」というワードが出ず、子どもたちに知らせた。</p> <p>・知ったことをすぐに覚え、友だちに嬉しそうに知らせていた。</p> <p>・今までの経験から、図鑑を見て調べるのが身についてきている。</p> <p>・他児にも図鑑で調べる方法があるということを知らせる為に「ここにザリガニのことが書いてあるのか！」と驚きながら、興味をもって保育者も一緒に調べる。</p> <p>・子どもたちが調べたいと思ったことをすぐに調べることが出来るよう、本棚に図鑑を常備している。</p>

今後の活動、課題

生き物が成長する過程や生き死にを見て、命の大切さを知っているところである。ザリガニがお腹に卵をつけ始めた為、図鑑を使って子どもたちと一緒に調べたり、お世話をしたりしながら成長を楽しみ、命の尊さを学ぶと同時に、ありやダンゴムシ等も同じであることを伝えていく。また、気づきを言葉にし発信する楽しさを味わえるようにしていく。

日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
<p>お昼</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが図鑑の中でザリガニと同じ写真を見つけ喜んでいる。 ザリガニが大きくなることを楽しみにしている。 <p>紙芝居『ひみつのザリガニ』を読む。</p> <p>「赤ちゃんザリガニと一緒に。」「洋服脱いだんだよね。」「脱皮したんだよね。」と言葉にする。</p>  <ul style="list-style-type: none"> 脱皮した抜け殻をザリガニが食べることを知り、驚く。 Y児「ザリガニの殻が無くなったら、ザリガニの赤ちゃんが食べたってことか！」と楽しみにしている。 <p>翌朝</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ザリガニの殻が無い！」「ザリガニの赤ちゃんが食べたんだ！」とY児を中心に盛り上がっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「何回も脱皮して大きくなると、ザリ子みたいになるんだね」「手がちょっと赤くなってない？」とイラストだけでは分からないことを知らせたり、問いかけながら伝える。 ※ ザリ子…ザリガニの赤ちゃんより前に捕まえたザリガニの成虫。 夏から数回読んでいる紙芝居。ザリ子がちゅうりっぷ組に来た時に読むと、興味をもって見ていた為、再び読んだ。 紙芝居を見ながら、今日の出来事を思い出し、言葉にしている。 子どもたち言葉に共感しながら、今日の出来事を子どもたちが関心をもったり、興味を広げることが出来るよう、簡単な言葉で伝えた。 紙芝居には載っていない殻を食べることを知らせ子どもたちの関心を集める。 ザリガニの赤ちゃんの飼育ケースをいつものように机の上に置き、声掛けはせず、子どもから気が付くことを待った。 予想したことがすぐに現実になり、更に生き物に興味をもつ姿が見られた。


R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園

タイトル 畝ってなに？		4歳児 すみれ組
		参加人数 20名(1/13 20名)
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
1月13日	<p>・ひまわり組がプランターでちゅうりっぷを育てる準備をしているのを見て、何をしているのか気になっていた。すると夏に育てていた野菜の話になり、自分達もやりたいという意見があった。しかしプランターの在庫がなく、畑での栽培へ向けて何をしたらいいのか調べることにした。</p> <p>調べてみると、畝は水はけ？通気性？というワードにそれは何？という疑問を担任に確認しながら、生長に欠かせない工程であるということを知った。</p> <p>・畑へいくと初めて見る場所に「こんなところにあっただの？」と喜びの声があがった。畝を作るにはどうしたらいいのか考えていると、Tくんが「お山にすればいいんだ」と言う。そこから各々が自由に山を作り始めた。しかし、調べたもの違う畝に気が付いた。</p>  <p>・画像を確認後子ども達は「長い」「ぼこってる」等々の気づきがあり、再度土に触れた。</p>	<p>・ひまわり組のしていることから、夏野菜を育てて食べたい経験を振り返り、またやりたいという気持ちになった。畑というプランターとは違う方法でどうたらいいのかという気持ちに寄り添った。</p> <p>・畑がどこにあるのか教えていなかったが、これを機会に知らせることにした。</p> <p>・自由に掘って、土を山にする様子を見守っていたが、途中でTくんの気づきによって畝の画像を再確認したいと保育者へ要望があった。</p> <p>・畝の間隔は子ども達だけでは難しかったので保育者が配慮をした。</p>


今後の活動、課題

周りが取り組んでいる様子をみながら興味をもち、自分たちもやりたいという関心を広げたことで喜んでいて、自分達が気になったことを取り組めるような環境準備し、達成感を感じられるようにしていきたい。

今後の課題は、何を育てるのか決まっていない状況で畝作りをしたので、先の見通しというのではなく、今何ができるか子ども達がしたいこと優先で進めてしまった。先の見通しまで話せるように配慮していきたい。

日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
	<p data-bbox="288 208 850 338">・出来上がった畝と画像を比較して同じような様子に「できた」と喜んでいた。「何育てようか」と期待している子もいた。</p> 	<p data-bbox="866 208 1433 293">・時期をみながら何を育てるのか話し合いを進められるようにしていく。</p>

R7年度とうきょうすくわくプログラム 事例報告書 荒川区立第二東日暮里保育園

タイトル どうして育たなかったんだろう、		5歳児 ひまわり組
		参加人数 23名(12/1～ 24名)
日時	子どもの興味関心	大人の気づき、配慮
R7.11.4	 <p>保育者が準備したキンセンカ、レモンバームなどしこを植える。 保育者からそれぞれの種に適した植え方を伝え実践する。 それぞれの花が咲いた時の写真を見せると期待に胸を膨らませていた姿があった。</p>	<p>それぞれの種に適した植え方を子どもたちに伝える</p> <p>どのような花が咲くのかを見せ、期待を持てるようにする。</p>
R7.11.5	<p>植えた後にどの植木鉢に何の種を植えたかがわからなくなってしまうとの声があり、ラミネートを使い種がわかるように表示をつかった。</p>	<p>画用紙を用意し、子どもたちが表示を作れるよう設定する。</p>
R7、11月～ 12月中	<p>幼児クラスの子どもが興味を示しジョウロを使い、水やりを楽しみながら行なう。</p>	<p>水やりができるよう環境を設定する。子どもから声が上がらない日は保育者から声をかける。</p>
R8.1.5	<p>今回いれた種の芽が中々出ず、「どうしてでなかったかな」と考えている様子がある。 ・水をみんなであげすぎてしまったのではないか。 ・誰かが抜いてしまったのではないか。 ・園庭の砂と混ざってしまった。 興味を持っていた子どもたちからはこれらの意見があがった。 先日クラスで植えたちゅうりっぷの球根はどうすれば咲くか図鑑を見て調べようとする。</p>	<p>今回なぜ芽がでなかったと思うか子どもに聞いてみる。 子どもが自ら図鑑を用いて育て方を調べようとする姿が見られたが、育て方がのってはいなかったことから、すぐに調べることをやめてしまっていた。 図鑑や本も必要だが、実践で使えるような本の選定も必要であると感じた。</p>

今後の活動、課題

子どもたちが育てているものに興味を持ち、水やりがしやすい環境かつ、様々な年齢の子どもがいるため、抜かれたりしにくい環境を考えていく必要がある。
子どもの興味に合わせて調べられるような本の選定が必要であると感じた。